

# 2022年11月報恩講 超覚寺報 第54号 【ハーディス屈たより】



親鸞聖人

- ◎ 寺子屋サロン(浄土真宗基礎講座)：毎月28日 | 3時半～15時  
10/28・11/28・12/28：テーマフリーの座談形式で開催しています。10/28は、本堂のお仏具のお磨きをします。
- ◎ 死別の分かちあいの集い：13時～15時  
夫を亡くした方：毎月第1土曜日(11/5・12/3・1/7)  
自死遺族の方：毎月最終土曜日(10/29・11/26・12/31)  
当事者の方々と僧侶(超覚寺住職)との分かちあいの集いです。
- ◎ 体操教室・整体教室・ヨガ教室・よろず相談会  
毎月開催していますが、日にちを固定していないので、境内墓地側の掲示板をご覧いただくか、お寺までお問い合わせください。

## ◇ 寺院護持費(墓地管理費)について

例年 この時期はお納めいただく方が多く、玄関が混み合います。お振り込みもどうぞご利用ください。

【ゆうちょ銀行】**15190-55770601**

他金融機関からゆうちょ銀行へ振り込まれる際は、次のように入力してください。

【名義】チョウカクジ

【店名】五一八(読みゴイチハチ)

【店番】518(普通預金) 5577060

## ◇ 報告・連絡・“僧”談

今年も広島カープは残念でしたが、終盤まで阪神や巨人とCS出場を争っていたのは楽しかったです。来期は監督もユニフォームも新しくなるので楽しみでなりません。チケットも頑張ってゲットしますよ！

今年のサンフレッチェ広島は強く(天皇杯は残念でしたが…)、2024年に完成する新しいサッカースタジアムも楽しみです。そうなれば、野球とサッカーをハシゴして観戦するなんてことも出来そうですね。  
発行人：超覚寺住職 稲隆恩(和田隆彦) (\*—\*)人 ～合掌

## 林鷲山 憶西院 超覚寺

RIN-O-ZAN OKU-ZEI-IN CHO-KAKU-JI  
[since 14歳 2162, 西暦1619, 元和5]  
〒730-0013 広島県広島市中区八丁堀 5-2  
Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113  
Mail : wada@namuamidabutsu.com  
HP : <http://www.namuamidabutsu.com>  
<http://mytera.jp/tera/48chokakuji>

# 超覚寺 冬の行事のお知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、ありがとうございます。  
さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしましたが、  
**コロナウイルス対策をし、三密に充分に配慮しますので、  
ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。<(\_ \_)>**



## 【 法要参拝旅行日程表 】

初日

- 7:00 (バス)・9:30 (新幹線)：JR広島駅集合  
11:30：JR京都駅集合  
12:00：昼食(京湯本ハトヤ瑞鳳閣)  
13:30：京都ハンディクラフトセンター  
14:45：青蓮院門跡  
15:30：京都国立博物館『親鸞展』  
17:00：リーガロイヤルホテル京都(洋室2名1室)

二日目

- 9:00：ホテル出発  
9:40：東本願寺にて法要参拝(昼食お齋)  
13:15：西本願寺参拝  
14:30：西利ショッピング(つけものビュッフェ)  
15:40 (バス)・16:46 (新幹線)：JR京都駅発  
21:00 (バス)・18:23 (新幹線)：JR広島駅着

広島県外にお住まいで東本願寺に直接お参りされる方は、本堂の参詣席を予約しますので、別途お申し出ください。

※ 初日の夕食後は、超覚寺独自のオプションとして、京都祇園のお茶屋さんでのお座敷体験を企画しています。こちらは希望者だけの参加で別料金になります。

## ◎ 2022年 報恩講法要

11月5日(土)

- 10時～ 勤行：市内法  
10時半～ 法話：小山興圓師

今年もコロナ禍に備え、今年も午前だけの法座となります。お齋の代わりに御供餅と御赤飯をお持ち頂きます。

今回も、私が学んだ大谷専修学院(真宗大谷派僧侶養成所)の同期でもある小山興圓師(愛知県安城市本證寺住職)が、絵解き法話をござ披露くださいます。親鸞聖人御絵伝は今回で終了の予定です。コロナ禍も落ち着いてきて(10月中旬現在)、ワクチン接種済みの方も増えました。でもやはり治療薬ができるまでは油断禁物です。超覚寺も従来通りの三密対策は実施し続けますので、皆さんも相応の対策を済ませて、安心してお参りできるように致しましょう。

## ◎ 2023年修正会法要

1月1日(日・祝) 6時～、8時～、10時～、12時～、

一年の計は元旦にあり。「今年もお念仏の道を歩ませていただきます」と阿弥陀様にご挨拶申し上げましょう。住職が約10分ほどの勤行・法話を勤めますので、新年どうぞ本堂までお参りください。  
門松や冥土の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし(一休禅師)

## ◇ “寺”後報告

### ◎ 親鸞聖人御誕生850年 立教開宗800年 慶讃法要

来年2023年3・4月に東本願寺にて、宗祖親鸞聖人の御誕生と立教開宗を慶び讃える法要がお勤めされます。宗祖親鸞聖人の御誕生、そして立教開宗を慶び讃えるということは、念仏の教えに出遇い、自らにかけられた願いに深くうなづき、そして、その御恩に報いていく歩みに他なりません。それは、人として誕生した私が、念仏の教え・はたらきに出遇う時、人として生まれてきたことの尊さに目覚め、生まれて生きることを真に喜ぶことのできる者となる、まさに念仏の教えに出遇った者の「報恩の喩み」なのです。

このたびの慶讃法要は、一人ひとりが自らにとつての浄土真宗との出遇いの意味をたずね、本願念佛の教えをいただくかけがえのない大切な「時」と「場」を賜ることであり、自らの聞法生活を問いつし、あらためて念佛申す歩みを確かめていく機縁となることを願いとするのです。半年先のことですが、どうぞ善き御縁にお会いください。

広島からは大谷派寺院合同で、下記の予定で団体参拝します。

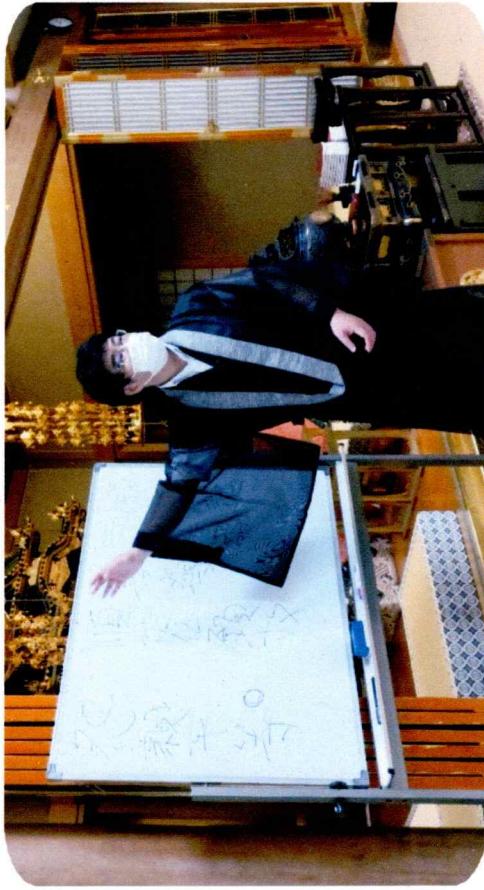
- ① 2023/3/26・27(日・月)： 定員100名(バス3台)
- ② 2023/4/19・20(水・木)： 定員 60名(バス2台)

往復路観光バス利用の総費用は55,000円(新幹線に乗る場合と、宿泊シングルの場合は、各々+10,000円)になります。  
超覚寺からは今のところ①の日程に3組の申し込みがあります。  
せっかくの春の観光シーズンということで、連泊される方もいらっしゃいますが、増えた分の宿泊の手配は各自でお願いいたします。

関心のある方は、どうぞ超覚寺までご連絡ください。

### ・9月17日(土)【秋季彼岸会】

台風が心配され、午前中は幾度か雨が降りましたが、午後は晴れて無事勤まりました。32名がお参りくださいました。  
瓜生崇師による歎異抄の法話は、ほとんど法然上人の話になっていましたが、それはそれで大きな学びになりました。  
法話の途中で、「どう話せば伝わるだろう…」「分かっていない人間が分からない人間に話しているんだから詐欺だよね…」と苦惱し身悶えているお姿は、聴いている側には逆に安堵感を得られるものですね。「安心して悩んでいいんだ」を全身で表現していました。私も話術に引き込まれて、参詣席の写真撮影を忘れてしました。



### ・10月3日(月)【龍谷大学 臨床宗教師研修】

京都の龍谷大学院生がグリーフケアの実習にきました。「原爆の実相」と「遺族の分かちあい」について私が話し、夫を亡くされたご遺族2名からは体験談や想いを聞きました。  
「何の為の仏教か」という学びは、若い世代には深く響いたようです。

## 【報恩講】

「報恩講」とは、親鸞聖人のご命日に合わせ、浄土真宗寺院でお勤めする最も大きな法要です。「報恩講」という法要自体は、本願寺三代の覚如上人が、永仁2(1294)年、親鸞聖人の33回忌法要の際、「報恩講式(私記)」を撰述されたことに始まると伝えられています。真宗大谷派の本山である東本願寺では、親鸞聖人のご命日・1月28日まで1週間に渡ってお勤めされます。超覚寺では、毎年11月第1土曜日(今年は11月5日)にお勤めさせていただきますので、みなさまのお参りをお待ちしております。

この報恩講の「報恩」とは、どういう意味ででしょうか? 普通に読みますと、「恩に報いる」ですから、「恩返し」と同じ意味かと思われます。この「恩返し」という言葉は、辞書には「自分ににとって善いことをしてくれた相手に感謝し、それに相応しい行為をして報いる」とあります。実は浄土真宗での「報恩」には、「恩を報せる」という他の意味も含まれています。

そもそも、私たち阿弥陀さまから頂いたご恩に相応しい行為をお返しすることなどできるのでしょうか? 「報恩」の語源は、お釈迦さまがお生まれになつた古代インドのサン스크リット語「クリタジュニヤター」という言葉です。クリタとは「なされる」、ジュニヤターとは「知る」ということで、合わせると「なされたことを知る」という意味になります。阿弥陀さまは私たちがこの世に生まれるよりはるか昔から、今のこの私を救う働きをなさつておられていました。そして現世において、いよいよ私にお念仏を受け入れさせ、必ず仏と成ることが決定する身に仕上げてくださったのです。今、「南無阿弥陀仏」と私の口からお念仏が出てくるのは、遠い過去世から阿弥陀さまがお育てくださつたからなのです。そんな阿弥陀さまの過去世からの広大無辺なご恩を知られても、眞実の心など持たず煩惱しか持たない私は、お返しなんてちつともできないということに気づか

れます。できません。お返ししようにもできない私なのです。親鸞聖人の『教行信証』で、信心を頂いた者が獲るという現生での十種の利益の中に「知恩報徳の益」をあげられました。信心を獲るということは、仏さまから賜つた広大無邊のご恩を知らされることであり、おのずからそのご恩に報謝することができるようになる、信心にはその恵みに報いる徳がそなわっているということです。

阿弥陀さまが「あなたを必ず救う、私の名を呼べ」と仰るまを受け取り、ただただ「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えさせていただきながら人生を送らせていただき、それこそが阿弥陀さまのお心にかなうことであり、報恩の行いなのだと親鸞聖人はお教えくださったのです。ご恩に気づかされ、それに報いた人生を送ることができるもの。私からは何もお返しすることはできませんし、その責務もありません。報恩の行いさえ、全てが阿弥陀さまからの賜りものであったのです。

こんなことを書いていると小難しいと感じますが、実際にすることは簡単なことです。私が「報恩」ということで意識しているのは、阿弥陀さまへの恩返しではなく、縁ある方々への「布教」ということです。それは殊更に仏教を説くのではなく、ただ声を出して「南無阿弥陀仏」とお念仏するだけです。自分に言い聞かせるように、そして近くにいる人にも聞こえるようにお念仏するだけです。

私も僧侶になりたての頃は、合掌してお念仏称えることの意味が分かりませんでした。「南無阿弥陀仏」と声に出すのもシャクに感じていました。でも不思議なもので、それをずっと続けていると自分がなりの意味が見出せてくるのです。私でもそうでしたので、騙されたと思って、ぜひ皆さんも声を出して合掌念仏してください。

もう新しいカレンダーが出ていますが、新しい年も共に「南無阿弥陀仏」と報恩感謝の一年にいたしましょう。